

編集：山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp

おかげさまで、みきおは 4歳になりました！

早いもので、私たちがネパール在勤中だった1997年6月18日に生まれた樹生君は、今年も誕生日をめでたく迎えました。

お庭にはお楽しみがいっぱい！

6月のワシントンは、梅雨もなく、時折夕立がありますが、普段は比較的乾燥して過ごしやすい天候が続いています。日中の最高気温は30度を超えますが、室内では1階や地下室にいる限りはとても涼しく感じます。最近洗濯物も乾燥機で乾かすのをやめ、庭で天日干しを行ないます。

洗濯物を干したり、庭の片隅でナスやきゅうりを栽培したりしていることもあって、最近よく庭に出る機会が増えました。隣のオショーネシー一家も庭で作業していることが多く、フェンス越しでニーナと話す機会がよくあります。長女のマリーと弟のトーマス Jr. は我が家の子供達と世代が近く、樹生と千智もオショーネシーの子供達の声が聞こえると、一目散で庭に飛び出して行きます。

庭の片隅には木製のテーブルが置かれています。6月には、お客様を招いて庭でバーベキューをやったりもしました。最近ホタルが我が家の庭にも戯れるようになり、夕方庭に出ると樹生が「クリスマスツリーみたい」というほど薄暗い中で淡い光がそこかしこで点滅します。そのうちに夕食も外で食べようかと考えています。

さて、そんな重宝な庭ですが、手入れも大変です。先月の「サンチャイ通信」で、浩司さんが芝刈りの最中にぎっくり腰になったお話を紹介しましたが、こちらの芝刈り機はかなり大型で、押すのも引くのも大変な力が必要です。我が家の芝は水撒きの手間も少なく生育も比較的遅い品種なのだそうです。ぎっくり腰になって3週間芝刈りをやらなかったところ、草むらのような状態になってしまいました。隣のトーマス Sr. が気を利かせて表の芝刈りをしてくれたのに恐縮した浩司さんは、腰の状態も芳しくない中で、残りの芝刈りを無理してやりました。刈られた芝はゴミ袋4個分にもなりました。

また、暑さが増す中で、雑草の生育も早く、4月頃は水仙が咲き誇っていた庭の一角は、ツタ系の雑草で覆い尽くされています。次項で紹介する通り、このツタの中には猛毒を持ったものも含まれているようで、私が知らない間に触って大変な目に遭いました。ホタルが乱舞し、子供達が庭を走り回り、浩司さんは2週間に1回は芝刈りをこなすこの季節、これ以上被害に遭わないように気をつけなければなりません。

(美澄)



「樹生君ダブルピース」ウルフラップ公園でのジャズコンサートから（6月25日）

病院通いの6月

6月は病院によくお世話になりました。6月に病院のお世話にならなかったのは、なんと5月にぎっくり腰を患った浩司さんだけでした。

ポイズンアイビーにかぶれた私

5月の下旬に家庭菜園を整備した際、作業を終わった後でちょっと痒かったのでキンカンをいつものようにつけておきました。その後右足首のところに引っかき傷のようなものができているのに気が付きましたが、痛くも痒くもないので暫く放っておいたのです。しかし3週間くらいして突然右足首が痒くなり、キンカンをつけたらかえって水ぶくれになってしまいました。慌てて緊急病院に駆け込んだところ、「Poison Ivy (猛毒性のツタ)」と診断され、注射を1本打たれた上に、塗り薬と5週間分の錠剤を処方されました。「Poison Ivy (猛毒性のツタ)」は漆科の植物で、それに触れると強い痒みと火傷をしたような水疱が出来、完治するまで人によってですが1ヶ月ぐらいかかります。その毒はかなり強く、直接触っていなくてもその油分が体についただけでもかぶれてしまいます。また燃やしてその灰が肺に入ると肺で炎症を起こすともいわれ、なかなか厄介なものです。

私自身も聞いていたので、長袖長ズボンで作業していたのですが、丁度足首のところは出ていたのでしょう、知らないうちに触れていたらしくかなりひどいことになってしまいました。発症するまでに3週間かかったことも回復に時間がかかる理由のひとつでしょう。

消毒薬を飲んじゃったみきおくん

私がポイズンアイビーでかぶれたところの消毒にと思って買ってテーブルの上に置いていた過酸化水素水を、幼稚園から帰って来た樹生がジュースと思って1口程飲んでしまい慌てたことがあります。

「お口が苦い〜。」という言葉に気がついて慌てて水を飲ませましたが、家庭医学書を読んでもどうしてよいのかわからず、医者連れて行こう考えました。しかし、樹生は「嫌だ〜。」と抵抗するし、困っていた時に「Poison control」のことを思い出し、電話で指示を仰ぐと「過酸化水素水は飲むと2、3回吐くけれど、特に問題がないでしょう。こちらは24時間誰かいるのでもし問題があったらまた電話を下さい。」と言われ、実際樹生は2回戻した後寝てしまい、その後夕飯も軽く食べたので特に問題はありませんでした。翌日樹生をお迎えに帰ってくると留守電が入っていて、「Poison control の者だけどその後様子はいかがですか。」と確認の電話がありました。折り返し電話をして問題ないと伝えると、この件は終了しますといわれ、バックアップ体制が整っているなと思いました。

ちーちゃんの近視発覚

千智が2歳になったので2歳児検診に連れて行った時のこと、ホームドクターから「う〜ん。ちょっと斜視気味かな〜。」と言われて小児眼科を紹介されました。予約を取って連れて行ってみると、先生はオモチャで気を引きながら、色々な角度から光をあてて検査をし、斜視ではないと言われました。ついでに視力も診ましようと言われ、目薬を差してから目を調べてみると、「通常2歳ぐらいでは遠視ですが、この子はごくわずかですが近視傾向ですね。」と言われました。治すことはできないのかと尋ねると、何もできないと言われました。ちょっとショックでした。私も浩司さんも目が悪いので仕方がないと思いますが…。



要注意、これがポイズンアイビーだ！
三枚の葉っぱが目印

みきおくん、外耳炎で大泣き

さらにまたまた樹生君。6月末の金曜日、幼稚園から帰ってきた後、日本人のプレイグループのメンバー宅で合同誕生パーティーを開いてもらいました。誕生ケーキのロウソクを吹き消したところまでは元気だったのですが、その後突然「耳が痛い。」と言い始め、パーティーもそこそこに、自宅に引き上げました。それでも痛みが引かないらしく、「痛い、痛い」と泣き叫ぶ樹生。丁度仕事から戻って来た浩司さんを玄関前でつかまえて、私もお世話になった McLean の緊急病院に再び向かうことになりました。

樹生は日本にいた時から時々中耳炎で耳が痛いと訴えていましたし、去年12月にアメリカに来て、最初にお医者さんにお世話になった時も、耳痛でした。また中耳炎かと心配していたところ、検診した医師は、まず「耳垢が溜まっていて見えないので耳掃除をします。」と言って取り出したのが大きなステンレス製の空気入れのような器具。そこに水を入れて耳垢にジェット水流を浴びせ、その勢いで耳垢を流れ落とすという凄まじいやり方でした。樹生君がまたまた大泣きしたことは言うまでもありません。日本ではお医者さんが丁寧にピンセットで少しずつ耳垢を取っていくのを見ていたので、泣き叫ぶ樹生を押さえながら「かわいそうに。やり方が違うとはいえ、やるのがダイナミックだな。」と思いました。片耳約10回ずつ水を注入してようやく全部の耳垢がとれると、炎症を起こしているのは外耳の方で、耳垢が溜まり過ぎたのが原因だろうと説明して下さいました。

泣き疲れた樹生君、その晩はすぐに眠ってしまい、翌日午後には元気を取り戻しました。耳掃除が嫌いな樹生君は、なかなか耳の穴を見させてくれませんが、これに懲りた私達も、これからは時々強制的にでも耳垢掃除をしようと心に誓ったのでした。

(美澄)

夏の試行錯誤(2) TOEFL の勉強始めてみたものの…

ここワシントンに駐在されている JICA 関係者の奥様方は、大学院のコースを受講したり、短期の語学研修を受講されたり、こちらの NGO や教会等でボランティアをなさったりで、皆さんお忙しい。我らが美澄さんは、育児に忙しい中でも何かやってみたいといろいろ考えていたようであるが、夏時間に入って私が比較的早めに帰宅するようになったのを契機に、TOEFL (Test of English as Foreign Language) という米国留学用の語学能力試験の受験準備コースを、ノーザンバージニア・コミュニティカレッジで、毎週土曜日の午前9時から4時間、8月第1週までの予定で受講を開始した。

開講されて初めて気が付いたのは、このコースでは分厚いテキストの他に宿題のプリントがかなり多く、予習復習に相当時間を費やさねばならないことだ。美澄は、毎週水曜日頃から準備を開始し、午前2時頃まで勉強する夜が2、3日続く。金曜日の夜は最も悲惨だ。そして土曜日は睡眠不足で授業に出て、疲労困憊の土曜の午後は疲れて帰ってくるパターンが暫く続いた。

協力する家族も結構大変だ。美澄がクラスに行っている間に子供の面倒を見ているくらいだったらまだいいが(その程度の浅はかな考えで受講にゴーサインを出したのだが)、平日夜に子供を寝かしつけ、さらに「仮眠」と称してベッドに横になる美澄を1、2時間後に起こすのも私がやる。実際には起きないことも多いが。しかし、さすがにこのパターンは美澄本人にとっても良くないと思い、私が AWS で休暇が取れる隔週金曜日や祭日には、「とにかく TOEFL の勉強だけやってろ!」と美澄に告げ、極力子供達の相手を私がするようにした日もあった。私の休日に集中して予習復習をやって平日の負担を軽減するのが狙いだ。

これだけ予習復習に時間が割かれるというのは、本人にとってはすごい収穫になると思う。昔 TOEFL でそれなりの高得点をマークしたことがある私としては、受験前にはとにかく量をこなせ、問題に慣れるというのが実感としてよくわかっている。こちらのテキストはパターン練習が非常に多いので、やれば絶対に身に付くと思う。大変だけど地道に頑張ってみてほしい。

とはいえ、週末土曜日を半日つぶされることによって、泊りがけの旅行にはなかなか行けないのが悲しい。6月30日は、私が16年前にお世話になったルイジアナ州のラルフ・カウエン夫妻の60回目の結婚記念日で、お祝いのパーティーに招待されていたのだが、土曜日の夕方のパーティーということで泣

く泣く欠席した。その代わりに、ウルフトラップ公園のコンサートとか、ボルチモア鉄道博物館とか、近場の日帰りコースは開拓したし、夏場はお隣のオショーンシー一家との交流等もあるので、それなりに満足しているのであるが、それにしても、美澄のコースが終了する8月第2週が待ち遠しいのである。
(浩司)

私の仕事(その3) **タスク・マネージャーとの付き合い方**

世界銀行は、経済学や教育学といった社会科学系の学位を持ったバリバリのエリートがしのぎを削る世界である。首切りは日常茶飯事として行なわれているし、今よりも待遇の良い部署があれば、なんとしてもチャンスをつかもうとする。こうした組織の中では、いかに自分が仕事ができ、だから沢山仕事を持っていて、ひとかどの人物であるかを他人に見せることが必要だ。そして、そんな組織の中で10年20年と揉まれてきた中堅やシニアの職員というのは、仕事を多く抱えてかつそれをさばいている自分に対して強烈なプライドを持ち、かつ弱肉強食の組織の中で生き抜く知恵を持っている。自分にとってはどうしてもいい電子メールには返事すらしない職員は、メールの出し手を踏みにじっておきながら、別のところでは自分がエライと見せようとする。往々にして、自分より高級の職員のメールは優先し、どうしてもいいのは無視する。言ってみれば、弱者を踏みにじって強者になびくのだ。そして、ライバルと見なした相手の足は引っ張ろうとするし、他人の手柄でも自分の手柄に見せようとする。

期間限定プロジェクトのタスク・マネージャー

世銀で「タスク・マネージャー(TM)」と呼ばれる職員は、そのタスク(仕事)に必要な予算を全て管理し、タスクに必要な人材を自分の裁量で揃える。他の部署の職員をチームに入れたい場合はその部署への機会費用の補填を行なうとか、ちょっと小間使いが必要な場合は短期のコンサルタントを雇うとか(しかも、一般競争入札というよりももっと恣意的な人選であるような気がする)、タスクを成功させるためのあらゆる判断をTMは行なう権限を持っているのだ。

私が身近で接したことのあるTMは、今年1月から5月末にかけて、4回にわたって行なわれたNGOキャパシティ・ビルディング・ワークショップを手がけたY女史だが、彼女がメールで意見を求めてきた事項に対して私がメールで反対意見を書いて送信したところ、すぐに電話がかかってくる、「TMは多忙で1日100件以上のメールを受け取るんだから、意見があったら電話をよこせ!」とエライ剣幕で怒鳴りつけられたことがあった。自分に対する反対意見を、関係者にもわかるようにCCで送信したため、自分のメンツが潰されたと感じたのかもしれない。人前でメンツを潰されること、特に自分よりも下級の職員にそれをやられると、過剰に反応するのがこの世界だ。それ以来、Y女史に対しては、ご機嫌を損ねないよう非常に注意している。

機能別グループのチーム・リーダー

よく似ているのが「チーム・リーダー(TL)」というやつで、世銀の各部局には、「〇〇ユニット」と名のつく機能別グループがいくつも存在していて、そのヘッド(班長)がTLである。ちなみに、私は信託基金・協調融資部(TFC)に7つあるユニットの1つ、「協調融資・ドナー関係ユニット」に所属していて、日本の他に、ドイツ、デンマークといった世銀への出資国(ドナー)との関係調整を行なっている。うちのユニットのTLはアルゼンチン人のC女史だ。

私が未だ一人前じゃないから、TLのC女史が仕事の割り振りで大変だったのはよくわかる。しかし、私がTFCに来て半年経過した頃から、自分だけで欧州のドナーを全て担当するのは大変だと言って、やれドイツだ、やれデンマークだと、新たなドナーを私の担当業務に加えてきた。自分が赴任する前に知らされていた業務内容には、日本以外のドナーは含まれていなかったが、それは良い方に解釈して、これも勉強だと思って取り組んだ。5月にはドイツ技術協力公社(GTZ)、6月にはデンマーク外務省との定期協議が開催され、私が受入準備を行なった。そのうちベルギーも自分の担当国になりそうだ。

こうして、仕事を分散させるのはいいとして、問題は、肝腎のドナーとのコミュニケーションを、C

女史が完全には開示していないことにある。彼女は、時々海外出張と称して1、2週間オフィスを空けることが多い。たいてい、欧州各国を巡回して、ドナーとの協議を行なっているのだが、その結果をユニットの面々にきちんとフィードバックしてくれていない。新たな担当国を割り振っておきながら、TFCを代表した欧州各国との直接折衝の場では自分がリードを取り、自分が本当の窓口で、他の職員はロジ係だと言わんばかりのやり方である。

デンマークとの定期協議の準備で、私が外務省に対して直接電子メールで事前調整を行なっていた際、「こんなことは相手に聞く前に自分に聞け。」と説教を食らったことがあった。また、私がデンマークに送信したメールの一字一句の定義を問い質され、ここで定冠詞 the を使った理由如何とか、文法についてかなり突っ込まれた。そんなに語法文法の正確さを求められたら、気軽にメール送信なんてやってられないし、C女史に相談に行くこと自体苦痛に感じるようになる。

つまるところ、世銀は弱肉強食、魍魎魍魎の世界…

同じユニットのE女史には、「世銀の中では、誰も信じてはダメよ。Cには、余計な仕事を振られないよう気を付けて。」とよく言われる。つまり、「世銀では、他人を信じると足元をすくわれる」「TMやTLは、部下に余計な仕事を振っておきながら、成果は自分で独り占めする」ということらしい。

(浩司)

ネパール王室乱射事件

すぐに呪いと結びつけるこの発想

6月前半の我が家の話題は、ネパール王室のディペンドラ皇太子が起こした王宮内銃乱射事件が中心となった。ビレンドラ国王夫妻が国民からどれだけ慕われていたか、現地に住んだことのある私達にはよくわかる。ましてや、その国王の直系にあたるディペンドラ王子他の王族が全て犠牲となっており、ネパール国民が心の拠り所としてきた王室が突然なくなるショックは、想像するにあまりある。ギャネンドラ新国王が何を言おうが、誰がどう見たって新国王が何か仕組んだと思われても仕方がない状況で、国民が新国王をどこまで受け入れられるのか、かなり心配している。

それはともかくとして、今回のミステリアスなこの事件、今のところ泥酔した上に大麻を吸っていたディペンドラが、前後不覚の上で銃を乱射したという調査チームの報告書で取りあえずのかたはついたことになったが、実は、最初にこの報道に接した時、「誰かの呪いじゃないのか。」と私達はすぐに考えてしまった。カトマンズに住んでいた頃は、人を呪い呪われという事例にはいくつも遭遇したし、心霊写真（心霊現象ではない）にお目にかかったこともあった。また、人から又聞きであるが、17世紀にプリティビ・ナラヤン・シャー王（現在のシャー王朝の先祖）がカトマンズ盆地を征服した時の戴冠式の際、サドゥ（修行僧）の1人がこの王朝は10代後に滅亡すると予言していたという話を聞いた。その10代目がディペンドラだったというわけだ。この類の話は、実はネパールには相当に多い。

私達は、今でも、今回の事件には、何か引き金となった些細な出来事が何かあって、それで何年前に仕込まれた歯車が回り始めて、ディペンドラは何か操られるように今回の事件を起こしたのだと、結構真剣に思っている。真相は多分間の中なのだろうが、心の拠り所を突然失ったネパール国民、特に、私達の身近で、ビレンドラ国王をかなり真剣に崇拝していたKCのことを思うと、やりきれない思いがする。

(浩司)



編集後記

- 昔、JICAの住民防災の専門家として私がネパールに派遣した牧野由佳さんが、今、世銀の幹部候補生として採用されています。「サンチャイ通信」1998年1月号の「神々の見捨てた土地～マクワンプル郡チサパニ集落訪問」や98年4月号の「チサパニ奮闘記」で、JICAが初めて現地NGOに業務を委託して実施した開発福祉支援事業「チサパニ村落開発・住民防災計画」立ち上げ初期の私の苦労話を紹介したことがあります。ネパールから東京に帰った私は、住民防災の専門家の立場からチサパニのプロジェクトの実施促進を託して、牧野さんをネパールに送り出しました。その彼女から、チサパニのその後を収めたビデオを最近見せてもらいました。牧野さんの任期中、現地NGOや村民とのやりとりで相当のストレスがあったことは随分と聞かされていましたが、村とそこに住む住民が変わってゆく姿を今回ビデオで見て、私自身も、このプロジェクトに関わることができた幸せを感じて、目頭が熱くなりました。我が長男に「樹生」と名づけた理由の1つはネパールの森林保全への思いがあります。いずれ樹生を連れてネパールに行ってみたいと考えていますが、その際には是非チサパニを再訪し、オヤジがこの村の生活改善に少なからず関わったことを、話して聞かせたいと思っております。
(浩司)
- 6月になってから急に忙しくなってきました。色々事件もあったし、暖かくなってきて外出しやすくなったせいか、慣れてきたせいか、子供の予定だけでも平日殆ど毎日外出し、土曜日は今月号に書いてある通りTOEFLのコースに通ってつぶれているし、かなり忙しくなりました。TOEFLコースは11回あるのですが、今まで受けたコースの中で一番ハードなもので、宿題が沢山出て大変で、自分がこんなに英語ができないのかと気付かされました。ただ家族にかける負担が大きいため、「もう辞めてくれ」と浩司さんに言われているので、コミュニティカレッジではなく、9月から教会がやっている託児つきのコースをとって継続していこうかなと思っています。やはり意志の弱い私は何か強制力がないとやらないので…。この講座を受けさせてくれて、協力してくれた浩司さんに感謝しています。
(美澄)
- ポイズンアイビーにかぶれた時、一体どこにポイズンアイビーがあるのかと思っていたのですが、庭の植木が伸び放題だったので植木屋さん（日本人）に来てもらい聞いたところ、裏庭で春に水仙が咲いていた場所にはびこっていた雑草がそうだとわれ、愕然。確かに3枚の葉っぱなのですが、以前知人の家で見せてもらった印象と全く違い、単なる雑草だと思っていたのです。一面にはびこっているポイズン。子供達がかぶれなかったのが不幸中の幸いでした。(美澄)
- 屋外は気温30度を超えるというのに、オフィスの中に入ると寒く感じるがよくあります。特に冷凍・冷蔵食品を扱うスーパーマーケットは、Tシャツ・短パンで入ると鳥肌が立ちます。外を歩く女性は肌を露出して「攻撃的」な服装をしています。地下鉄車内やオフィスの中に入ると、突然カーディガンを1枚着重ねます。明らかに冷房を効かせ過ぎです。こうしてエネルギーの無駄遣いを平然としているアメリカが、エネルギー危機だと聞かされても、私たちにとっては鼻白むばかりです。ここ数ヶ月、アメリカの京都議定書離脱が日本でも取り沙汰され、最近訪米された田中外相や小泉首相は合衆国政府の京都議定書への参加を積極的に働きかけられているようですが、大量消費・エネルギー浪費社会アメリカの根本的な問題なので、住民1人1人が襟元を正して生活スタイルを変える努力をしないと、地球環境問題への対応はなかなかできないような気がします。ブッシュ政権の産業重視政策の一方でアメリカには何百万人という会員を持つ環境保護団体（NGO）が多くあります。それなのに、ここの生活スタイルは、私が留学していた16年前と全く変わっていません。構造改革を求められるのは日本だけではないような気がします。(浩司)